

へきなん広報大使
中村優花さんが
ナビゲート

昨年度もおかげさまでなんとか来園100万人達成！

あおいパーク プロモーションビデオを作成

コロナ禍で、相次いでイベントが中止となったあおいパーク。1998年に開園し、4年後の2002年からは毎年度、来園者数が100万人を超えていました。

しかしコロナ禍の影響はあおいパークも例外ではなく、2020年3月から今年の1月にかけて来園者数は減少傾向となり、2020年度の来園者数は100万人を切るのではないかと心配していました。

そんな中、今年の2月から3月に行われたのが「コロナに負けるな！午後の感謝祭」。午後のあおいパークは混雑することなく、のんびりゆったり楽しむことができ、そんな時間帯にも来園してもらおうと企画されました。感染症対策に欠かせない「密」の回避のためにも、午前



中に人が集中しないようにとの配慮も背景にありました。

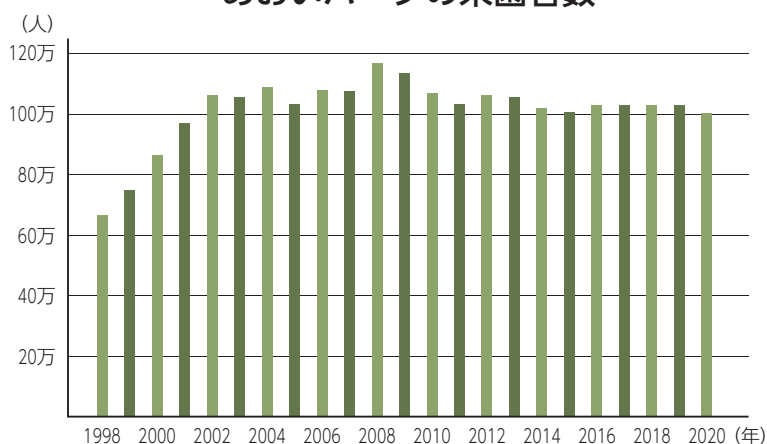
このイベントを行ったこともあって、2月から3月の来園者数は上向き、昨年度の年間来園者数は100万2千233人と、なんとか19年連続で100万人を達成することができました。

また、午後の感謝祭と同時期に、あおいパークのPRを目的にプロモーションビデオの作成も行いました。へきなん広報大使の中村優花さんがナビゲーターを務め、あおいパークの産直市やもぎとり体験農園の紹介、そして、ブランドにんじん「へきなん美人」のジュース作りと内容盛りだくさんです。中村さんナビゲート3作品目のプロモーションビデオをメイキングと共に紹介します。このプロモーションビデオは、碧南市広報YouTubeで公開中です。



- ・1998年4月29日開園
- ・2002年に初めて年間来園者100万人達成
- ・2008年に来園者累計1,000万人達成
- ・2017年に来園者累計2,000万人達成
- ・今年度の年間来園者が100万人を達成すると**20年連続**で100万人達成

あおいパークの来園者数





撮影裏話

路上でのオープニングシーンは、ヘリコプターが通ったり強風が吹いたりして、撮り直しを5回も行いました。もぎとり体験農園の受付シーンも数を覚えていないほど撮り直しをしました。

ビデオの最後にあるナレーションは、原稿には「畑のど真ん中にあるあおいパーク」でしたが、微妙な感じだったので撮影の合間に皆で決めました。その結果はビデオで確認してみてください。



休日には遠方からの家族連れでも賑わうもぎとり体験農園。冬が旬の「へきな美人」の収穫を体験しました。甘みが特徴のニンジンには、砂地が生育に関わっているとのビデオでも石井園長が解説してくれています。「根元を持って真っすぐに抜く！」と教わり早速抜いてみると、形の美しい物から、超々大きい物がー。収穫したての糖度が10度くらいあるへきな美人を使って、100%ジュース作りも行いました。ジュースにニンジンをセツトすると、一瞬にしてジュースが出来上がり、初めて飲んだ中村さんのレポートにも注目してください。



季節感が味わえる植物園「観賞温室」。植物園での勤務経験のある人が監修していて、毎月展示物も変わっています。そして、植物園には「ゴリラ」がいるのを知っていますか。気になる人はプロモーションビデオや現地で確認してみてください。

石井園長 /

芝生広場に立っている看板が写っているのが注目ポイントです。その看板は、あおいパークの学生アルバイトが3か月間かけて作成したものです。看板は、子どもがポスターを書いたときのようなタッチで描かれており、公共施設には無いような感じに仕上がっています。使わなくなった看板などの廃材を再利用し、自分たちでペンキを塗ったりして作り、愛着もあります。プロモーションビデオや現地で探してみてください。

問



中村優花さん /

祖父母や家族とよく一緒に買い物に来ているあおいパーク！昔から私のお気に入りスポットは植物園です。よく隠れゴリラのぬいぐるみを探していた思い出があるので、撮影をリクエストさせていただきました。この日も市場は相変わらず野菜や果物がお財布に優しい価格で、スタッフさんと「安い！」の嵐（笑）。活がありつつも、和やかなこの場所が私は大好きです。

あおいパークの魅力が詰まっているビデオです。是非見てみりん！

編集者の声
Editor's Voice

街歩き番組のようなテイストで作成した今回のプロモーションビデオは、フリーアナウンサーとしても活動している中村さんのナレーションをたくさん取り込むように構成しました。ナレーションにも是非注目してください。イチゴが収穫後だったので、寂しい感じに映ってしまいましたが、もっと鈴なりに美味しそうなイチゴが実っています。また、歩きながらでもブレずに撮影できる機材を使っている点にも注目してもらえればと思います。機材は中々の重量があり、右腕のみ筋肉痛となってしまったので、次に備えて“腕”を鍛えていきたいと思っています。（永・堀）